

## 平成21年度プロジェクト評価結果取り纏め状況等(前半)

平成21年10月29日

NEDO 研究評価部

## 1. 今年度評価状況等

(1)今年度は、40件【中間評価25件、事後評価15件】の評価を実施予定。

このうち、25件【中間評価21件、事後評価4件】について、各分科会での評価作業、第22回及び今回の研究評価委員会での審議を経て、評価報告を取り纏め、以下に整理した。

(2)中間評価結果は、プロジェクトの拡大、変更、縮小、中止等の今後の運営方針に反映し、事後評価結果も含めて、得られた教訓は、NEDOの研究開発マネジメントの高度化に繋げることが重要。

## 2. 中間評価の概要

## (1) 全体傾向

各評価項目の評点結果の平均から見た全体傾向は、昨年、一昨年とほぼ同じ。

(表1)

表1. 評価項目ごとの平均値推移

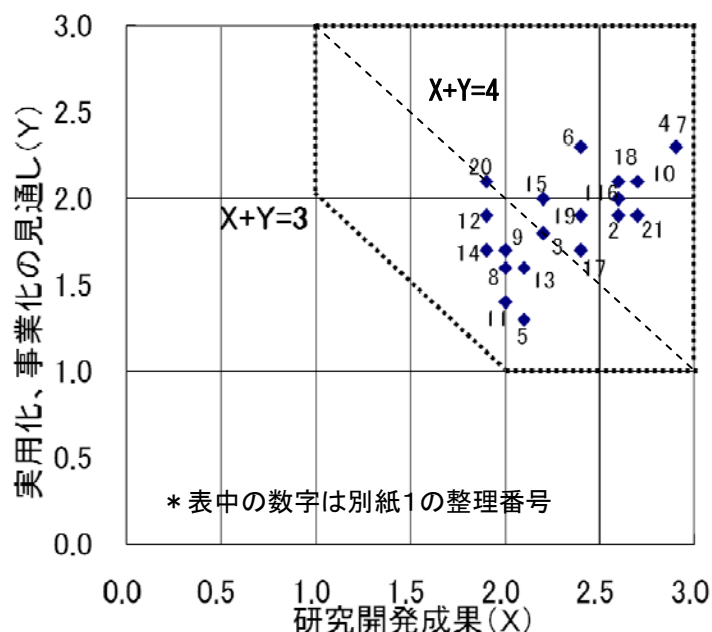
	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
21年度上期 21件	2.8	2.2	2.3	1.9
20年度 22件	2.8	2.2	2.4	2.0
19年度 10件	2.8	2.1	2.3	1.9

また、上期に実施した21件のプロジェクトは、いずれも一定水準以上の評価結果であった。(表2)

表2. 中間評価結果の評価分布(参考)

別紙2に代表する肯定的内容や改善点・提言を含めた評価結果について、現在、その反映作業を進めており、プロジェクトの拡大・変更・縮小・中止等、今後の運営に資する。

(注)標準的評価項目に対しA(優)B(良)C(可)D(不可)の4段階の評点を付け、A=3, B=2, C=1, D=0として事務局が数値換算。平均値を算出する。



(2) 個別プロジェクト(別紙2参照)

① 特に高い評価を受けた事例

番号	プロジェクト名	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
4	循環社会構築型光触媒産業創成プロジェクト	2.9	2.7	2.9	2.3
7	創薬加速に向けたタンパク質構造解析基盤技術開発	2.9	2.9	2.9	2.3

いずれのプロジェクトも、その分野で国際的にリーダー的存在となっている研究者をプロジェクトリーダーとして、レベルの高い基盤研究と実用化に向けた企業の課題を解決する産学連携をうまく運営している。

② 合格相当ではあるが、厳しめの評価を受けた事例

番号	プロジェクト名	位置づけ	マネジメント	成果	実用化
5	希少金属代替材料開発プロジェクト	2.8	1.9	2.1	1.3
11	革新的ノンフロン系断熱材技術開発プロジェクト	2.7	2.0	2.0	1.4

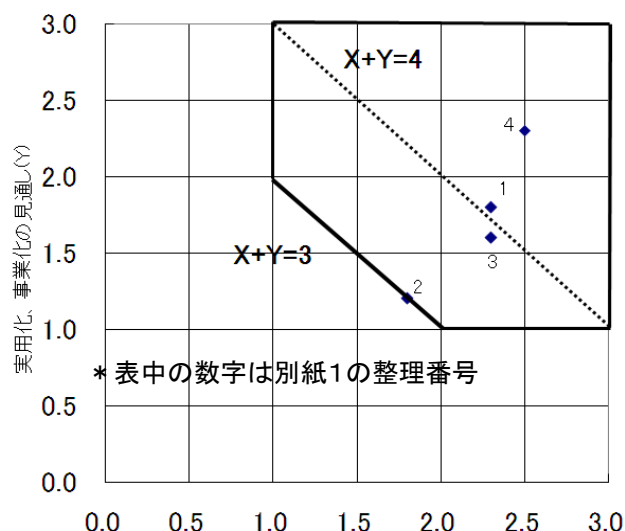
いずれのプロジェクトも「実用化見通し」の評点が厳しめ。評価で指摘された課題への解決方針を検討すべきもの。

3. 事後評価結果の概要

上期においては、年間予定数 15 件のうち 4 件について評価。

今年度は第二期中期計画(H20-24)の2年目で、かつ、現在は上期が終了した段階であるため、中期計画全体の数値目標(合格率 80%、優良率 60%)との直接比較は出来ないが、4件とも合格(うち2件が優良)となっている。(表3, 別紙2)

表 3. 事後評価結果の評点分布



#### 4. 優れたマネジメントの事例

今年度上期の評価において、他の類似プロジェクトにおいても活用できる優れたマネジメントへの高い評価も受けているものがある。

特に、集中研において、民間企業を結集し競争と協調を工夫した優れたマネジメント事例を示す。(表4)

表 4. 優れたマネジメントの事例

番号	プロジェクト名	マネジメントへに関する評価(抜粋)
4	循環社会構築型光触媒産業創成プロジェクト(中間評価)	月2回という高頻度での検討会とそこでの最新データの公表と共有化、会議の録音を始め、 <u>最初の提案者の権利を担保する仕組みなどのアイデアなど、運営法も斬新かつ極めて的確である。</u>
5	次世代高度部材開発評価基盤の開発(事後評価)	多種多様な企業や競合企業を CASMAT として取りまとめることができ、各参加企業が機密を保持しつつ、 <u>自社がどの位置にいるのかのベンチマークを可能としたことを非常に高く評価する。</u>
7	創薬加速に向けたタンパク質構造解析基盤技術開発(中間評価)	国際的にリーダー的存在となっている研究者を中心として産学官の研究者が有機的に連携できる体制となっている。特に、 <u>企業関係者の人材育成・教育、及び企業の個別課題解決に向けた配慮ある事業体制が運用されていることを評価したい。</u> 一方で、(製薬企業との)課題解決型連携に関しては、本プロジェクトの成果を活かした創薬加速の実績をある程度示すべく、何らかの公表できる方法を検討して欲しい。

#### 5. 後半の評価予定 (別紙1参照)

現在、後半のプロジェクトについて評価分科会での評価を進めている。今年度中に2回研究評価委員会を開催する予定。

(1~2月・3月を予定。中間評価4件 事後評価11件付議予定。)

なお、この中には、大綱的指針改訂に伴い、今年度から実施予定の事後評価の前倒しを行う3件も含んでおり、12月に評価分科会を行う予定で作業を進めている。